

平成 27 年 9 月 関東・東北豪雨により被災した河川管理施設等の設計検討会 設立趣意書

平成 27 年 10 月 2 日

1 目的

平成 27 年 9 月 9 日から 11 日にかけての関東・東北豪雨により、大和町の南川で日雨量 322 mm を観測するなど記録的な豪雨となった。県内の上空に長時間次々に雨雲が流入し降雨が継続する線状降水帯が形成され、多くの河川管理施設が被災した。

特に大崎市古川の渋井川においては、堤防が 3 箇所あわせて延長約 90 m が決壊し、浸水面積 430 ha、床上床下を合わせた浸水戸数は 400 戸にも及んだ。

また、出来川の下流部にある名鱈越流堤は干拓遊水地に放流する施設も決壊し、広大な耕作地が浸水することとなった。

今後の出水による被災を未然に防止するため、今回被災した渋井川堤防や出来川名鱈越流堤の被災メカニズムの検証と復旧工法等を検討するものである。

2 検討項目

- **渋井川、名鱈越流堤の被災メカニズムの検証について、専門的見地から技術的指導や助言をいただく**
- **渋井川、名鱈越流堤の復旧工法を検討するにあたり、専門的見地から技術的指導や助言をいただく**